

# 古代末期キリスト教文学における間テキスト性への

## デジタル・ヒューマニティーズ的アプローチ

宮川 創 So Miyagawa

### 古代末期キリスト教文学と間テキスト性

古代末期キリスト教文学の研究において、テキスト間の相互参照や影響、すなわち「間テキスト性」(intertextuality) は、作品の深層を解き明かし、テキストが生成された文化的・歴史的背景を理解する上で不可欠な要素である。間テキスト性は、一つのテキストが他のテキストとどのように対話し、互いに影響を及ぼし合っているかを示す。この相互作用は、文学的創造性の源泉であり、テキストが持つ多層的な意味を明らかにする鍵となる。

古代末期のキリスト教文学では、聖書が最も重要な権威の源と位置づけられていた。聖書のテキストは、神学的議論、説教、教義の正当化など、多様な文脈で引用され、解釈された。これらの引用や引喩は、テキスト間の深い関連性を示すものであり、間テキスト性の顕著な例と言える。間テキスト性は、テキストがいかにして他のテキストと対話し、相互に影響を及ぼし合っているかを明らかにする。このプロセスを通じて、テキストは新たな意味を獲得し、読者はテキストを多層的に解釈することが可能になる。

近年、デジタル・ヒューマニティーズ (DH) の技術は、間テキスト性の研究に革命をもたらし始めている。特に、テキスト分析ツールやデジタルコーパスの発展は、従来の手法では困難であった大量のテキストデータの処理と解析を可能にし、未知の間テキスト性の発見に寄与している。しかし、これらの技術が間テキスト性の研究において本質的に持つ可能性とともに、その限界についても理解する必要がある。

本稿では、古代末期キリスト教文学を研究対象とし、特にコプト語文献に焦点を当てる。コプト語文献は、エジプトのキリスト教化過程を理解する上で欠かせない資料であり、聖書の引用や引喩が頻繁に見られる。これらの引用や引喩は、コプト語キリスト教文学が形成された文化的・神学的背景を探る上で重要な手がかりを提供する。しかし、コプト語文献の膨大な量と、テキストの断片化により、従来の研究手法ではこれらの間テキスト性を包括的に分析することには限界があった。ここで DH のアプローチが登場する。デジタルテキスト分析ツールを用いることで、コプト語文献における聖書の引用や引喩を自動的に検出し、これまでになく規模でテキスト間の関係を解明することが可能となる。本稿では、このような DH 技術の導入が間テキスト性の研究にどのように貢献できるかを検討する。

### 分析方法

本研究の目的を達成するための方法論は、DH で用いられている技術を活用し、古代末期キリスト教文学における間テキスト性の詳細な解析を行うというものである。まず、対象となるコプト語文献のコーパスを作成する。研究の対象となるコプト語キリスト教文学のテキストは、4-5 世紀の白修道院院長シェヌーテおよびその後継者のベーサの書簡である。特に、シェヌーテは、コプト語における最大の著述家と言われているが、その多くのテキストが、まだデジタル翻刻されていない。そこで、デジタル翻刻がされていないシェヌーテとベーサのテキストをデジタル化し、アノテーションを施した (詳細については、Miyagawa et al. 2018 参照)。

このプロセスは次のように進めた。まず、OCR (光学文字認識) による、文献画像からのデジタル・テキストの抽出を行う。この OCR は、筆者らがすでにコプト語テキストを機械学習させたものを用いた (Miyagawa et al. 2019)。次に、Virtual Manuscript Room (Griffitts 2017) で写本の写真を見ながら、WYSIWYG なオンラインエディタで、OCR で抽出したテキストを修正し、行番号、カラム番号、ページ番号、装飾などをタグ付けし、DH において人文学資料マークアップの標準形式である TEI (Text Encoding Initiative) Guidelines P5 に準拠した XML で出力した。さらに、Coptic NLP Service (Zeldes and Schroeder 2016) で、Universal Dependencies (de Marneffe et al. 2021) に基づいた統語情報、形態素情報 (レンマ・品詞・借用語情報など) を XML 上でタグ付けした。

そしてこのようにしてタグづけられたテキストの上でテキスト・リユース探知ソフトウェア TRACER を走らせた。TRACER は、複数のテキスト間での引用や引喩などのテキスト・リユースを検出する能力を持つ。このツールを用いて、コプト語文献コーパスと聖書文献コーパス間での引用・引喩を自動的に識別した。

### 結果と考察

分析の過程で、多くのテキスト・リユースが引用元がわからない「イディオムの」テキスト・リユースであ

ることが明らかになった。これらは、聖書からの直接的な引用ではなく、聖書的な言い回しや概念を含むが、特定の聖書箇所へ直接結びつけることが困難なものであった。このようなイディオムのテキスト・リユースの特定は、テキスト間の関連性を明らかにする上で重要な一歩であるが、引用元を正確に特定することの難しさを示している。これらのイディオムのテキスト・リユースは目視によって取り除いた。

そうして選別した TRACER 分析の結果からは、これまでに文献で特定されていなかった新たな聖書引用が複数発見された。これらの聖書引用の詳細と分析については、筆者の博士論文である Miyagawa (2022) を参照されたい。これらの新出の引用の発見は、コプト語キリスト教文学における聖書テキストの使用についての理解を深め、古代末期キリスト教コミュニティの文化的・宗教的背景に新たな光を投げかける。特に、これまで注目されていなかったテキストや、聖書との間に複雑な対話を持つテキストの再評価につながる可能性がある。

TRACER によるテキスト・リユースの検出と分析は、古代末期キリスト教文学における聖書引用と引喩の研究において重要な進展をもたらした。大量のテキスト・リユースの発見は、聖書テキストが古代末期のキリスト教文学に与えた影響の広がりや、新出の引用の発見は、テキスト間の関連性と文化的・宗教的背景の理解を深める。しかし、この研究はまた、デジタル・ツールの使用に伴う挑戦と限界を浮き彫りにし、今後の研究において人文学的なアプローチとの組み合わせが重要であることを示している。

## 結論

本研究を通じて、DH で用いられている技術が古代末期キリスト教文学の解析において有益なツールであることが確認された。特に、テキスト・リユース探知ツール TRACER の使用は、聖書の引用や引喩の新たな発見に寄与し、これまで見過ごされていたテキスト間の関係を浮き彫りにすることに成功した。これらの成果は、DH 技術が古代文学研究の新たな地平を開く可能性を示唆している。

さらに、DH 技術の適用に際しては、人文学的な洞察に基づく分析の重要性を忘れてはならない。デジタルツールは、大量のデータを処理し、新たな関連性を提示することができるが、その結果の解釈には人間の研究者の深い知識と理解が必要である。テキストの文化的・歴史的コンテキストの理解や、文学作品の多層的な意味の解釈には、依然として人文学のアプローチが不可欠である。

本研究で特に顕著だったのは、イディオムのテキスト・リユースの自動分類と、文脈に基づく引用・引喩の意義の判定に関する限界である。イディオムのリユースは、特定の聖書箇所への直接的な言及ではなく、聖書的な言い回しや概念を含むテキストであるため、これらを自動的に分類し、その意義を評価することは現在の技術では困難である。この問題は、テキストの文脈と解釈に関する深い理解を必要とし、単純なアルゴリズムや機械学習モデルでは捉えきれない複雑さを示している。

今後の研究では、DH 技術の精度を高め、より複雑なテキスト分析を可能にするための技術的進歩を追求するとともに、人文学的な洞察を深めることが求められる。デジタル技術と人文学のアプローチの有機的な統合が、古代末期キリスト教文学研究の未来を形作る鍵となるだろう。このような取り組みにより、古代文学の新たな解釈がもたらされ、文学研究の新しい地平が開かれることを期待する。総じて、DH は古代末期キリスト教文学の研究において大きな可能性を秘めているが、その有効な適用には、技術的な進歩と人間の洞察力の両方が必要である。このバランスを達成することが、今後の研究の成功に不可欠である。

## Works Cited

- Griffitts, Troy. *Software for the Collaborative Editing of the Greek New Testament*. 2017. University of Birmingham, PhD Thesis.
- de Marneffe, Marie-Catherine, et al. "Universal Dependencies." *Computational Linguistics*, vol. 47, no. 2, 2021, pp. 255–308, [https://doi.org/https://doi.org/10.1162/coli\\_a\\_00402](https://doi.org/https://doi.org/10.1162/coli_a_00402).
- Miyagawa, So. *Shenoute, Besa and the Bible: Digital Text Reuse Analysis of Selected Monastic Writings from Egypt*. SUB Göttingen, 2022, <http://dx.doi.org/10.53846/goediss-9082>.
- Miyagawa, So, et al. "Building Linguistically and Intertextually Tagged Coptic Corpora with Open Source Tools." *Proceedings of the 8th Conference of Japanese Association for Digital Humanities*, edited by Chikahiko Suzuki, Center for Open Data in the Humanities, 2018, pp. 139–41.
- Miyagawa, So, et al. "Optical Character Recognition of Typeset Coptic Text with Neural Networks." *Digital Scholarship in the Humanities*, vol. 34, no. Supplement 1, 2019, pp. i135–41.
- Zeldes, Amir, and Caroline T. Schroeder. "An NLP Pipeline for Coptic." *Proceedings of LaTeCH - The 10th SIGHUM Workshop at the Annual Meeting of the ACL (Berlin)*, 2016, pp. 146–55.